

(午後 2 時 開会)

1 自己紹介

委員及び事務局が自己紹介を行った。

2 協議事項

(1) スポーツ推進計画の令和 6 年度施策評価について

事務局から資料に基づき説明を行った。

(委員長)

基本施策 I スポーツライフの推進について、目標値よりも下回っているということで、子育て世代や働く世代の参加できるようなスポーツ機会の提供が不足しているとの分析がありましたが、ご意見はありますでしょうか。

(小島委員)

質問になりますが、スポーツを実践している人の割合について、施策の評価に学区別では三ツ池が高いとの記載がありますが、なぜ高いのかわかれば教えてください。

(事務局)

スポーツ推進委員にお伺いしたところ、三ツ池コミュニティはモルック大会やペタンク大会などをコミュニティの運動会のように、自治会対抗で実施しており、その他にもいきいき健康教室などを行っているそうです。会議を行う際には色々な団体やスポーツ推進委員、コミュニティ役員など幅広く参加することで、連携が上手くいっているのではないかというお話をされていました。

(小島委員)

コミュニティ、町内会のイベントなど、地域の活動にスポーツを取り入れていくことが重要になるかと思います。

(委員長)

コミュニティの方で、そういった良い取り組みに学び、連携するような機会はあるのでしょうか。

(安藤委員)

交流会は年に1度ありますが、そのような機会はあまりないです。そういった良い例をご紹介いただける機会があれば、参考にしたいと思います。

(高谷委員)

指標については、コロナ明けから上がっていくものと思っていました。これは、コミュニティのイベントへの参加者が増えることで伸びるものなのか、継続的にスポーツを行っていないと伸びないのか、こういったものなののでしょうか。

(事務局)

総合計画の指標を用いており、スポーツを実践しているかの質問に対して、はい、いいえで答える形式になっています。16歳以上の10代と65歳以上の数値が前年よりも下がっており、市の事業として高齢者向けよりも家族、子供向けの事業が増えているからではないかといった推測はできますが、アンケートにより、はい、いいえで答える形式のため、指標の上がり下がり进行をこうだと断定するのは難しいです。

(委員長)

年次比較で現状を把握するということのありようとしては、指標の取り方について検討いただくことも必要かもしれません。

(久野委員)

中学校部活動の地域展開の関係で、基本的に指導者には謝礼を払う方向で話が進んでいます。仮に30人の部員で月謝を3,000円から3,500円程度と考えたときに半分程度が謝礼での支出となります。月謝からの支出は当然運営経費もあり、稼働率を最低限に抑えている状況でこの試算ですので、謝礼を払うために補助を手厚くしていただかないと人材確保が厳しいというのが現状です。また、他の自治体の指導者に対する実情を調査いただき、その情報を

共有いただきたいです。今後の平日部活動の地域展開のことも考えると、そういった平日での指導者の確保の話もついて回ると思いますので、そういった実態を含めて調査いただきたいです。

（事務局）

地域展開についてはスポーツクラブ東海を主体として取り組まれているところですが、当然ながら市として支援していきたいと思っております。競技部も複数ある中で様々な面で連携が必要になるかと思っておりますので、今後も話をしながら進めて参ります。

（副委員長）

指標の推移についてですが、前年と比較して1.5%減となっており、人数にすると15人程度だと思いますので、数値の取り方で下がって見えますが、評価としては「悪化」ではなく、「横ばい」とした方が良いかと思えます。

（事務局）

事業としては順調に行われてきたという部分がありますし、言われるように、実人数の面から見て、「横ばい」の評価でよいと感じております。

（委員長）

市民へのフィードバックをする際に、見え方というのも重要になってきます。縦軸の数値の取り方によっても変わってきますので、そのあたりも検討いただければと思います。

（日原委員）

この指標について、eスポーツは含まれるのでしょうか。一体感と活力をスポーツの力でというところで言いますと、eスポーツでそれが得られるのであれば、含めてもよいのではないかと思います。なぜそういった話になるかと言いますと、新施設の創造の杜交流館が、映像に特化した施設で、eスポーツの会場になり得ると聞いております。これを広げていくことができれば数値も上がるのではないのでしょうか。

(事務局)

国の基本計画を参考にしながら本計画を策定しており、体を動かすことをスポーツと位置づけております。現状としては本計画にeスポーツの推進を含めていないのですが、そういった観点も踏まえて進めて参ります。

(委員長)

eスポーツをどう捉えるかだと思います。国の基準でまだ数値化して比較するような状況ではないため、今は含めていないのですが、それとは別にeスポーツの普及度合いを数値化して残すという考えもあります。国の計画で認められた時にすぐに含められるような形で、それを広がりとして現段階から捉えておくのも良いのではないかと思います。

(副委員長)

eスポーツでいうと、高齢者福祉施設で頻繁にやり始めるような動きがあります。若者と比べ、高齢者にとっては十分に体を動かしているということになるのかなと思います。ただし、本名ではなくハンドルネームを使用する点や、年代別の集計などの面も考えると指標としては難しいところもあるのかなと思います。

(委員長)

ありがとうございます。では、基本施策Ⅰスポーツライフ推進については、ご提案の評価とさせていただきます。続きまして、基本施策Ⅱアスリート活動の推進について、評価としては順調となっております。大同特殊鋼さんとしては、この件では関わりが深いと思いますが、日原委員はいかがでしょう。

(日原委員)

全国大会出場件数の面から言いますと、我々のチームとしては変わらないのですが、国民スポーツ大会で優勝というタイトルが取れたのは良かったことだと思います。

(委員長)

ありがとうございます。他に何か意見がなければ基本施策Ⅱアスリート活動の推進については、ご提案の評価とさせていただきます。

(委員長)

続きまして、基本施策Ⅲスポーツによる交流の推進について、順調という評価になっており、アジア・アジアパラ大会を契機に機運を高めていきたいとのことです。ちなみにカバディの普及については、その後どうでしょうか。

(事務局)

カバディ協会愛知県支部と連携をしての体験会の実施、カバディ漫画の学校や児童館への配布などを行いました。今年度に入りまして、出前授業という形で取り組んでいくなど考えておりますが、まだ普及が進んではない状況のため、力を入れていきたいと思っています。

(小島委員)

アジア・アジアパラ大会のボランティア登録についてはどのような状況でしょうか。

(事務局)

東海市は160名のボランティア募集をしているところ、現在152名が東海市を希望されている状況です。東海市からは200名程度のボランティア希望者名簿を組織委員会に提出しているため、皆様のご協力のお陰で160名には届くのではと推測しております。

(委員長)

カバディについて、相江委員の方はどうでしょうか。学校に働きかけるだけでは出来そうな環境でしょうか。

(相江委員)

事務局もまだ取り組み始めたところだと思います。活気のあるスポーツですし、楽しめる種目かと思いますので、いい機会の提供があればとは思っております。

(委員長)

ありがとうございます。それでは、基本施策Ⅲスポーツによる交流の推進につきましましては、ご提案の評価とさせていただきます。

続きまして、基本施策Ⅳスポーツに親しむ場の整備について、順調ではないという評価となっております。施設の充実を今後図るとの内容もありますが、いかがでしょうか。

(梶江委員)

今年の3月まで小学校で勤務をしておりまして、夏は気温が高くてほとんど子どもを外に出すことができずにいたのですが、高齢者も含めて熱中症の危険を加味してスポーツを自制した人もいたと思います。スポーツをしやすい環境という指標の「環境」にはそういった要因も含まれるのかなと思いました。

(委員長)

東海市の市民体育館や、学校の体育館などの運動施設は温度管理ができるかといったことの現状はどうでしょうか。

(事務局)

市民体育館は外に面している弓道場を除いて冷房が設置されており、市内中学校はすべて冷房を設置済みです。小学校については、順次設置を行うという話を聞いております。スポーツ課としましては、加木屋テニスコートの人工芝の張替えや、市民体育館のLED照明への取替、床面の改修だとかは進めて参りましたが、自分の身の回りの環境が改善されないと数値としては変わらないのかそのあたりの分析も必要かと考えています。

(森山委員)

先日、山形市のシェルターインクルーシブプレイス コパルという施設の記事を見まして、こちらは障害の有無や人種や性別などに関係なくともに遊ぶことができる施設となっています。スロープや手すり、誘導ブロックなどが、ただバリアを解消するだけでなく、誰にとっても新しい遊びや学びのきっかけになるようにデザインされているそうです。こうした施設が東海市には不足しており、まだまだ障害者がスポーツに携わるような環境が整備されていないと思います。

(委員長)

車いすの方であるとか、体温調節の必要性などを考えると、健常の方々以上

に配慮すべきことがあると思いますし、そういったことを踏まえて施設についてのご意見も出していただいたと思います。森山委員が紹介されたような目玉となる施設ができることで、インクルーシブな取り組みの推進をアピールするという考え方もあると思いますし、様々な人が集える環境づくりの課題という踏み込んだ意見を頂戴しました。

(事務局)

市民体育館の話になってしまいますが、アジア大会に関連して障害者用の観客席や、トイレの改修、スロープの設置などを行っております。徐々にではありますが、分け隔てなく使える環境の整備を目指して参ります。

(久野委員)

スポーツのしやすい環境とは使い勝手のこともあると思います。施設使用に関して、団体として施設が空いていても、申請日の兼ね合いで使えない、学校開放は登録団体しか使えないといったところの制約について、もう少し見直すことができるかとより環境としては良くなるのではと思います。

(事務局)

施設管理上の話もありますので、こうするという明言はできかねますが、ご意見として頂戴させていただきます。

(日原委員)

基本施策Ⅱの関係になってしまうかもしれませんが、大同フェニックスは市民体育館をメインアリーナとして利用させていただきました。2024-25シーズンでは8試合を行い、5,232名に来場いただきました。1試合平均654名ということで、県内他市で平均2,000名というところもありますので、更に市とも連携をして進めていければと思っております。

(小島委員)

それに関連して、試合のある日は全館貸切となっておりますが、それをどうにかするのは難しいのでしょうか。試合はメインアリーナだと思います。有料なので入場制限の必要性があるのは承知していますが、スポーツクラブ東海の競技部として、そのあたりの利用の調整ができないかと思うのですが。

(事務局)

ふるさと大使である大同フェニックスの活動につきましては、支援表明をしており、市を挙げて支援していくものと捉えております。施設の利用にあたっては、今の利用方法に至るまでの考え方もありますので、調整できる部分がないかというご意見として頂戴させていただきます。

(委員長)

利用している場所や時間、規定などによりできるかどうかはあると思いますが、そのあたりを踏まえて検討していただければと思います。それでは、基本施策Ⅳの評価についても協議を終えさせていただき、次の議題に参ります。

(2) 令和7年度の主な事業について

事務局から資料に基づき説明を行った。

(委員長)

事業の方も充実してくれば、よりよい方向に進んでいくと思います。ご意見がないようでしたら、次に参ります。

(3) スポーツ推進計画・重点プロジェクトの推進について

1 都市公園スポーツ交流拠点プロジェクト

事務局から資料に基づき説明を行った。

(委員長)

ありがとうございます。何かご意見はありますでしょうか。

(小島委員)

今年の5月11日に行った市民モルック大会について、参加者はどの程度いたのでしょうか。

(事務局)

38組133名の参加でした。

(小島委員)

これに対して、ペタンク大会は57名の参加になっておりますが、これは継続するのでしょうか。

(高谷委員)

令和6年度のペタンク大会を最後とし、これに代えてモルック大会を行う方針となっています。

(小島委員)

ありがとうございます。参加者が100人未満の大会にスポーツ推進委員を割いてやるべきかというところもあるのでお伺いしました。加えて、都市公園にスポーツ用具を置いても、使い方がわからないのでは意味がないので、コミュニティの役員の方だとかを対象に使い方の講習だとかをぜひスポーツ推進員を通じてしてもらえないでしょうか。

(高谷委員)

スポーツ推進委員の方でも検討して参ります。

(小島委員)

結局使って貰えなければ意味がないという認識が必要だと思います。

(事務局)

貸出の周知とその使い方が広まるように、スポーツ推進委員との連携も図りながら進めて参ります。

(副委員長)

ノルディックウォーキングについては0件ということで、公園に歩いて行って借りるなら自分で買ってしまおうという方もいたでしょうし、決してマイナスな数字じゃないとは思いますが、講習会を開くだとか新しい利用が増えるような方法を考えてよいのではないかと思います。

(事務局)

プロジェクト自体でも日常的にランニングやウォーキングに取り組んでいる状態を目指すとしているところも踏まえて、今後の取り組みについて検討させていただきます。

(委員長)

他になれば、次の議題に参ります。

2 学校のスポーツふれあい広場プロジェクト

事務局から資料に基づき説明を行った。

(委員長)

前回の会議で議論があり、その要望を含めて検討した結果を踏まえ、具体的な案をお出しいただいたところかと思います。いかがでしょうか。

(相江委員)

これにより申請がしやすくなる団体もあるでしょうが、スポーツ課が間に入ること、ひと手間余分になるのではと思う部分もありますし、何とも言えないところです。16時から18時ということは、先生が施錠して回る時間で、放課後児童クラブの子どもたちもいる、子どもたちがいるとできない工事をやるなどの事情を考慮する必要があると思いますが、まず試してみることはいいのかなとは思います。

(事務局)

事前に指導主事の先生とお話しをした際に、下校後に遊びに来た子どもたちが使えないのはどうか、放課後児童クラブの子どもたちと棲み分けができないのはよくないといった意見も頂戴しています。そのあたりを考慮してまずは何件かやれると、課題の整理もできてくるのではと考えています。

(委員長)

枠だけをとって自由にやるような形式だとそういった学校側との折り合いをつけるのが難しいと思いますし、平洲コミュニティの事例を参考にやってみることで課題も見えてくるかと思います。

(小島委員)

展望や新制度案を見たときにいいなと思いました。子ども教室についてスポーツ教室の枠を広げてもらっているのはありがたいのですが、継続という点で課題があると思いますので、そういった点も踏まえてこの制度が広がって、改善していけると良いと思います。

(久野委員)

長期の休みの期間に子どもたちを集めて活動ができると良いと思います。早い内に取り組んでいただけるとありがたいです。定期的な取り組みに繋がるとよりよいものになると思います。

(副委員長)

申請から承認まではどのくらいの期間を想定していますか。

(事務局)

具体的に何日というのはまだ決まっていますが、調整に長期間を要することはないと考えております。

(副委員長)

そのあたりも利用実績を経てだと思いますが、こういった制度もアナログでスタートしたものをデジタル化することで、より使いやすいものにできると良いと思います。

(高谷委員)

元の話は子どもたちが自由に遊べる場をというところにあつたと思います。子どもたちが利用することを前提として考えないと、話に食い違いが出てくると思いますので注意していただきたいです。16時～18時の時間帯について、協力したいという気持ちはありますが、スポーツ推進委員も仕事をしてい

る人が多い時間帯にはなってしまうため、時間帯が一つの課題だと思います。

(委員長)

障害者の方がこの制度を利用するという点でいうと、森山委員から何かありますでしょうか。

(森山委員)

保護者の方のバックアップが必要なこともありますので、その時間帯に障害者の方々が集まって活動できるのかという点は懸念しております。

(委員長)

今回の案をイメージとして実際に行うところにまずは繋げていけると良いと思います。では、次の議題に参ります。

3 スポーツ指導者バンクプロジェクト

事務局から資料に基づき説明を行った。

(委員長)

現状7名の登録ということで、事務局としてはこれを少ないと捉えているのに対し、実際にその方々をもとに指導する体制を整えた取り組みができれば、それをモデルとして広げていけるのではないかと思います、いかがでしょうか。

(小島委員)

地域展開に関わるような指導者も任意で登録いただくのは難しいのでしょうか。実際に他の指導があり、対応ができないというのが現状でしょうが、あくまでバンクという位置づけなので、登録をしておくことでタイミングが合えば指導できるようなケースもあるのではないかと思います。

(委員長)

そうしようとした場合に何かハードルはあるのでしょうか。

(小島委員)

競技部の長にお願いして許可を得られた場合に、登録をするといった手法であれば可能だと思います。

(事務局)

事務局としては登録だけで終わってはいけないという思いがあり、活躍できる場の提供ができればと考えています。スポーツクラブ東海の中でバンクの指導者を活用するようお願いしたいのと、こういった指導者が欲しいと言った声があれば共有できるよう、両面から働きかけていく必要があると思っております。

(委員長)

スポーツ推進委員の方が登録することについて、高谷委員いかがでしょうか。

(高谷委員)

先ほども話がありましたが、登録だけしてニーズがあったときに実際には動けないことへの懸念はあります。

(久野委員)

登録のある方について、現在の指導状況の把握はできているのでしょうか。

(事務局)

現状そこまでの把握はできておりません。

(久野委員)

今は別で指導しているからできないということもありますし、逆に指導していた時間が空いて、今ならできるといったケースもあるかと思しますので、把握ができるような仕組みになると良いと思います。

(小島委員)

平日の部活動についても今後廃止の流れがあると思います。そういった場合にもこういったバンクの活用を視野に準備ができると良いと思います。

(委員長)

土日の部活動が廃止になることもありますし、今まで指導を担ってきた学校の先生が引き続き指導することや、指導者バンクに登録するということについては、いかがでしょうか。

(梶江委員)

引き続き指導したいかどうかのアンケートの結果では、なかなか手が挙がっていないのが現状です。今は指導できても知多圏内での異動もありますし、配属の学校が居住地から近いかなどの状況によって変わります。学校から離れて活動があると難しいところもあるのかと思います。

(委員長)

人材確保という点で、登録者数を増やすことについては、小島委員の意見を踏まえてできる部分で依頼していくということもあると思いますし、並行して実績作りをしていくというところだと思います。他の意見はいかがでしょうか。

(森山委員)

登録のある7名に障害者スポーツの指導員はいますか。

(事務局)

いません。

(委員長)

その件については、大学側の課題でもあると思います。中級の資格をとるためには現場経験が求められるので、学生はボランティアや大会には参加していますが、それよりも実際に自分が指導できる環境の方が良いとは思いますが、そういった話もしていきたいと思います。課題はまだありますが、7名の方の登録を無駄にしないように、実績が作れるような形で進めていただければと思います。協議事項については、以上で終了します。

3 その他

(委員長)

全体を通して何かご意見、ご質問等がありますでしょうか。

(小島委員)

この場をお借りしてお話させていただきたいです。地域展開に向けて、スポーツクラブ東海として各競技部に受け皿を作って貰っているところです。教員の働き方改革というものは尊重しますが、これがスポーツ振興の妨げになってはいけないと思います。クラブに移行した際に実際の参加者が少ないようなことは避けなければいけないですし、顧問の先生からいかに推奨して貰えるかに懸かっていると思います。教育委員会として地域展開に伴いクラブへの移行を推奨するように改めてお願いしたいです。

(相江委員)

子どもたちに興味があるところに参加してもらえるのが良いとは思っておりますので、お話いただいたことを踏まえて進めて参ります。

(委員長)

平日は学校の先生が指導し、土日は地域で指導することになりますので、そのあたりの指導内容が連携されるように注意は必要かと思います。

(小島委員)

教育委員会主体で施設の管理やパワハラの問題などについての研修もお願いしたいです。当然スポーツクラブ東海としてもきちんとやらなければいけません、学校の先生ができてことを同じようにやれるように連携していく必要があると思います。

(委員長)

そういった中で、1週間安心して活動ができるように、両者が連携して環境を作っていくことが重要なのかと思います。ご意見ありがとうございました。他にありますでしょうか。

(副委員長)

今回PDCAのチェックが入り、アクションの改善を早いところでやる必要があると思いますが、この冊子の改訂版を作る予定はあるのでしょうか。デジタル版の様な形でも結構だとは思いますが、何らか変えていかなければいけないかと思います。

(事務局)

本計画は国の基本計画に基づいて策定しております。令和9年度から国の計画が第4期に入るため、その内容を加味して本計画の第2期についてどうするかといった考えはありましたが、現段階では本計画の改訂の話は出ておりません。

(副委員長)

当初の計画ほどのものを作る必要はないと思いますので、もう少し改訂がいつでもできるような形にした方がよいかと思います。そうでないと、計画に沿うような事業を進めていても、東海市は遅れていると思われるような内容になってしまいます。

(委員長)

1期が7年を想定していて、今年度が2期に向けた折り返しのタイミングだと思います。何らかのブラッシュアップをするか、形を変えて皆さんが取り組みやすい形をとるかというのは検討事項かと思います。他によろしいでしょうか。ないようでしたら、次回会議について事務局からお願いします。

(事務局)

次回の会議は9月を予定しています。日程については後日連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

(委員長)

第1回スポーツ推進会議を終了いたします。ありがとうございました。

(午後3時45分 閉会)